

2024年 環境経営レポート

活動対象期間(2024年1月1日～ 2024年12月31日)

発行日：2025年 2月21日



株式会社 東郷



® 環境省

エコアクション21

認証番号:0003756

目 次

I	会社概要	．．． 2 ページ
II	環境経営方針	．．． 3 ページ
III	実施体制	．．． 4 ページ
IV	環境への取組	．．． 5 ページ
V	環境経営目標・計画	．．． 6 ページ
VI	環境活動の実績	．．． 7 ページ
VII	環境活動の取組評価	．．． 10 ページ
VIII	次年度の環境経営計画	．．． 11 ページ
IX	環境関連法規の違反・訴訟等の有無 及び環境コミュニケーション	．．． 12 ページ
X	代表者による全体の評価と見直しの結果	．．． 13 ページ

I 会社概要

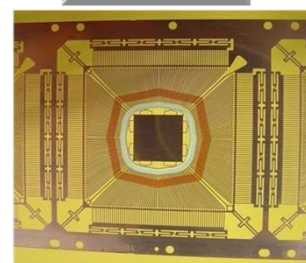
事業所名	株式会社 東郷	
所在地	本社・工場	鹿児島県鹿児島市川田町2194
	関東設計事務所	茨城県日立市滑川本町1-9-83
	長島工場	鹿児島県出水郡長島町大字山門野4528-16
代表者名	代表取締役社長 東 成生	
環境責任者及び 担当者連絡先	環境管理責任者	井上 裕志
	連絡代表者	下竹 ひろみ
	E-mail	hiromi_shimotake@togo-japan.co.jp
	E-mail	eco@togo-japan.co.jp
	連絡先	TEL (099) 298-8050 FAX (099) 298-7942
事業規模	役員 6名 従業員数 71名 計 77名	
事業内容	〔超精密金型製造販売〕	
	ICリードフレーム金型 コネクター金型	
	モーターコア金型 金型パーツ部品 製品量産	



特殊技術を駆使した桜島型の加工サンプル



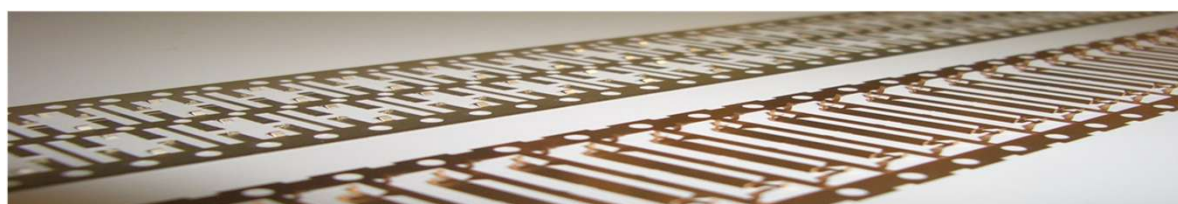
モーターコア



リードフレーム

対象範囲(認証・登録範囲)

対象事業所	本社・工場、関東設計事務所 長島工場
認証登録番号	0003756
認証登録日	2009年6月18日



コネクタ

Ⅱ 環境経営方針

理念と対応



地球温暖化への著しい変化は、地球からの私たちに対するメッセージと受け止めなければならない。

従って私達は対応として、常に未来に向け、日々生育させている「モノづくり」と合わせ、環境に対する配慮と探究心を持った「人づくり」を併行して行う。

そして当社では、一致団結の精神に基づき、温暖化抑制等に関するエコアクション21の真意・目標に沿い、先憂後楽、10年後～20年後の未来に向け、具体的な行動を推進する。

方針



人、企業、地球が共に成長し発展していく為に環境負荷の低減に努めます。すべての事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で、以下の環境保全活動を展開します。

- 1 環境経営システム・環境保全の継続的な改善を推進します。
- 2 環境への負荷が少ない製品を供給します。
- 3 環境関連法規や地域の条令を遵守します。
- 4 二酸化炭素排出抑制を推進します。
- 5 水使用量の削減を行います。
- 6 廃棄物排出抑制と資源のリサイクル化を推進します。
- 7 環境に配慮した原材料を優先して購入し製品に使用します。
- 8 化学物質含有量の把握と管理を行い、適正量維持に努めます。
- 9 不良品の低減に努めます。
- 10 地域社会における環境保全活動へ積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
- 11 社員全員に環境方針の周知を徹底し、環境保全に関する知識・意識の向上を図ります。
- 12 環境経営レポートにまとめ、社外にも公開します。

制定日 2008年10月1日

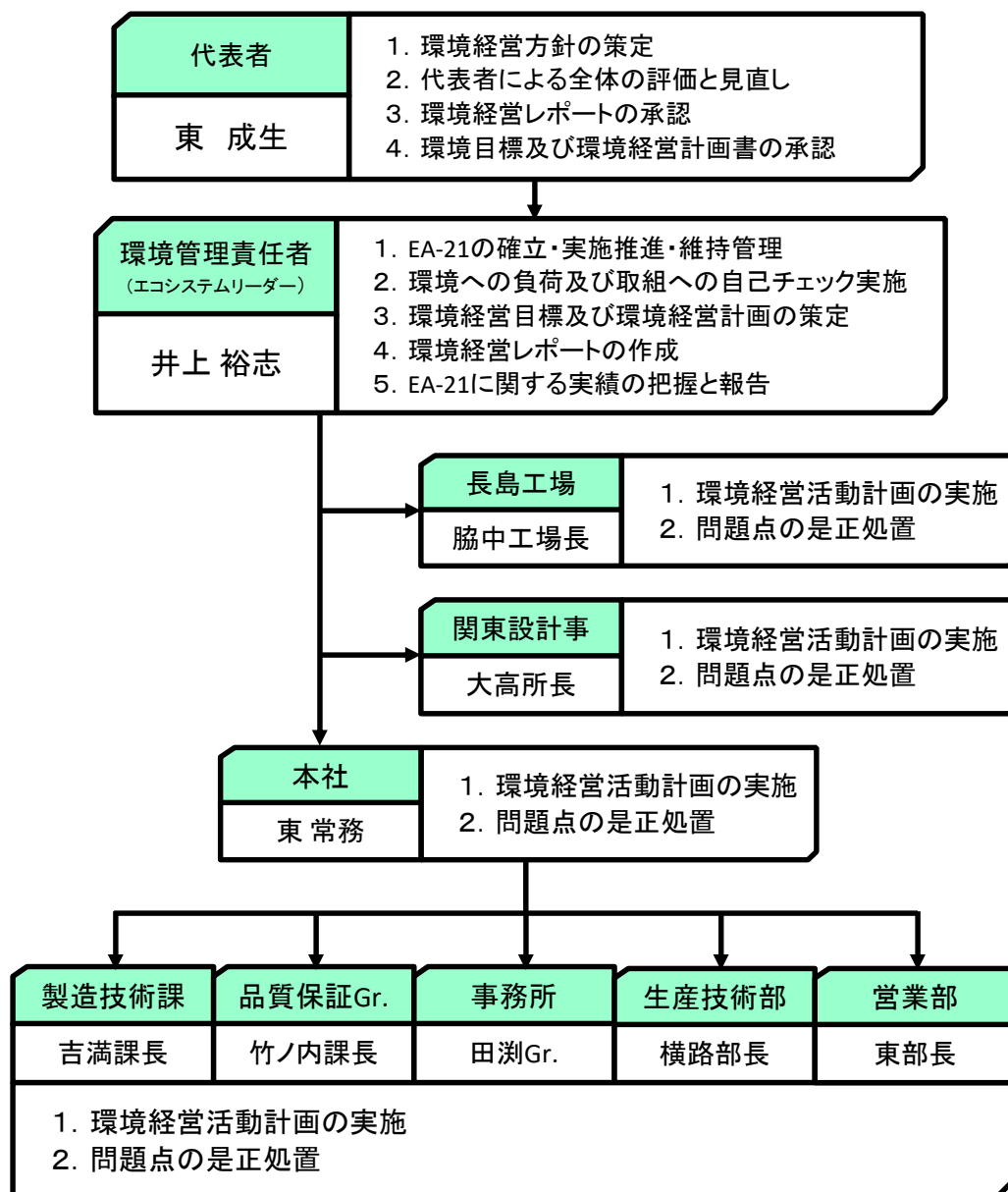
改定日 2020年1月15日

株式会社東郷 代表取締役社長
東 成生



III 実施体制

取組対応組織表



◆毎月エコアクション21定例会議を行う。

IV 環境への取組

事例の紹介～二酸化炭素排出量の削減～

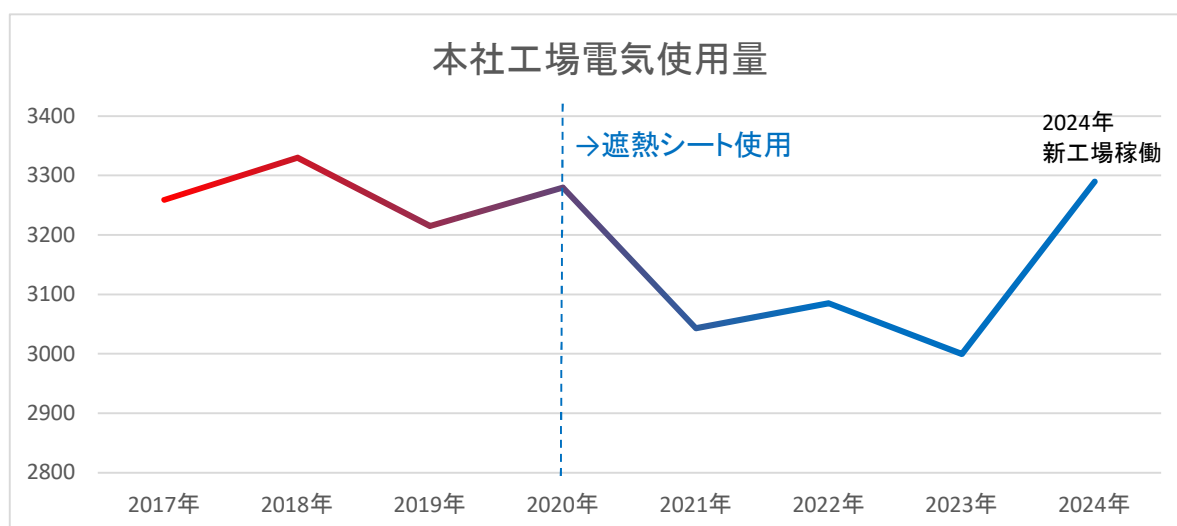
遮熱シートを天井に貼り、工場内温度環境の向上と電気使用量（二酸化炭素排出量）の削減を実現

弊社は超精密加工部品を取り扱う為、工場内の温度を年中安定した温度で保つ必要があります。そのため、空調機の使用量と負荷が大きく、空調機の修理を頻繁に行う様な状態でした。

しかし、特殊な遮熱シートを天井に貼り、工場内温度環境の向上と電気使用量の削減に挑戦しました。遮熱シートを天井に貼ったことで、24.8℃の断熱効果により空調機使用を半減することが可能になり、電気使用量の削減と空調設備の保全に大きく貢献しました。



また、第一工場では地下式工場という形式で、建物を建築後に周囲を埋め、地下式にすることで外気による室内温度の変動を抑えることができます。



V 環境経営目標・計画

取り組み	前年度実績	今年度目標	中期目標	
	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
CO₂排出量の削減 (電気使用量・LPGガス使用量・ガソリン使用量の削減)	実績値 電気:1484.05 t-CO ₂ 自動車:2.77 t-CO ₂ ※1 長島工場※2 LPGガス:31.57 t-CO ₂	前年度実績-1% 電気:1469.23 t-CO ₂ 自動車: 2.77 t-CO ₂ ※1 長島工場※2 LPGガス:31.25 t-CO ₂	前年度実績-1% 電気:1454.53 t-CO ₂ 自動車:2.77 t-CO ₂ ※1 長島工場※2 LPGガス:30.93 t-CO ₂	前年度実績-1% 電気:1439.98 t-CO ₂ 自動車:2.77 t-CO ₂ ※1 長島工場※2 LPGガス:30.62 t-CO ₂
廃棄物排出量の削減	実績値 一般廃棄物:23.05t リサイクル100%の維持 前年度実績:642.99t	前年度実績-1% 一般廃棄物:22.82t リサイクル100%の維持	前年度実績-1% 一般廃棄物:22.59t リサイクル100%の維持	前年度実績-1% 一般廃棄物:22.36t リサイクル100%の維持
水使用量の削減	実績値 1295.1m ³	前年度実績-1% 1282.14m ³	前年度実績-1% 1269.31m ³	前年度実績-1% 1256.61m ³
地域清掃活動への参加	毎年2回、地域清掃への参加	左に同じ	左に同じ	左に同じ
特定化学物質の使用量管理	毎月の適正管理	左に同じ	左に同じ	左に同じ
製品及びサービスに関する環境配慮	クレーム件数の削減	左に同じ	左に同じ	左に同じ

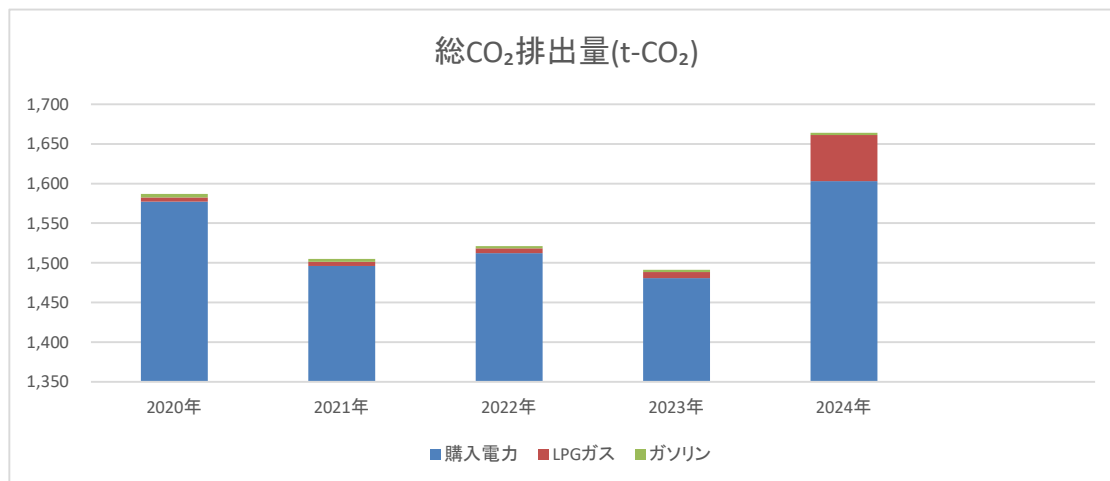
※1 自動車のCO₂排出量については維持とする。

※2 本社LPGガスが今年度からの使用のため目標基準値は来年より策定する。

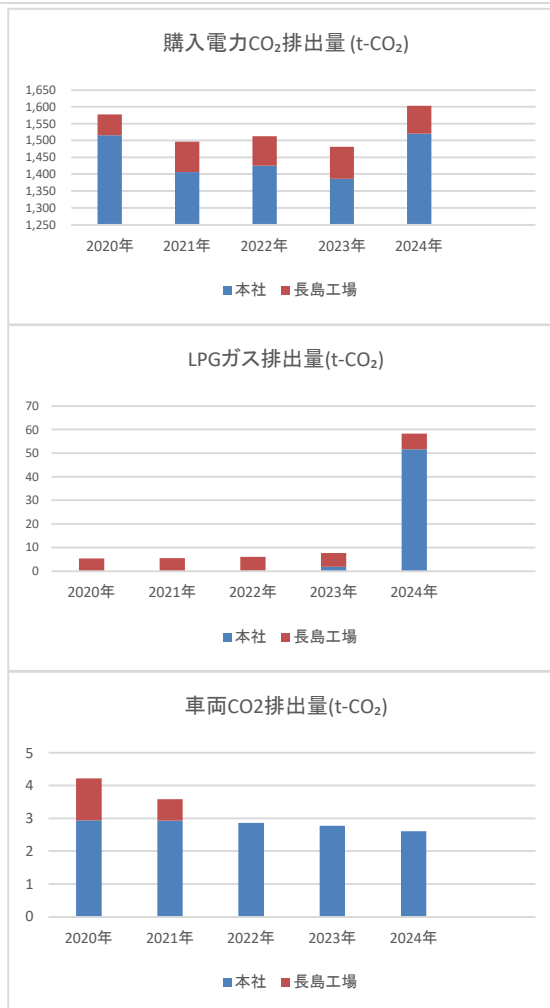
VI 環境経営活動の実績

[1]CO₂排出量

2024年度のCO₂排出量は約1660t-CO₂となり前年度より大きく排出量が増加しました。増加の要因として、新工場稼働により電気使用量の増加、空調設備(LPGガス)の増加が主な原因としてあげられる。



2020年度から2023年度は断熱シートを使用し一部の部屋の外部から熱を遮断したため、なだらかに排出量が下がっていましたが、本年度は新工場の本稼働の開始により、本社のCO₂排出量が大幅に増加いたしました。また次年度も生産数の増加によりCO₂排出量の増加が予想されるため、空調設備の管理の徹底を行い、適正温度の見直しの検討や外気温対策などを継続して行っていく必要がある。



※購入電力のCO₂排出係数は
2022年度CO₂換算係数 0.462 を使用しました。

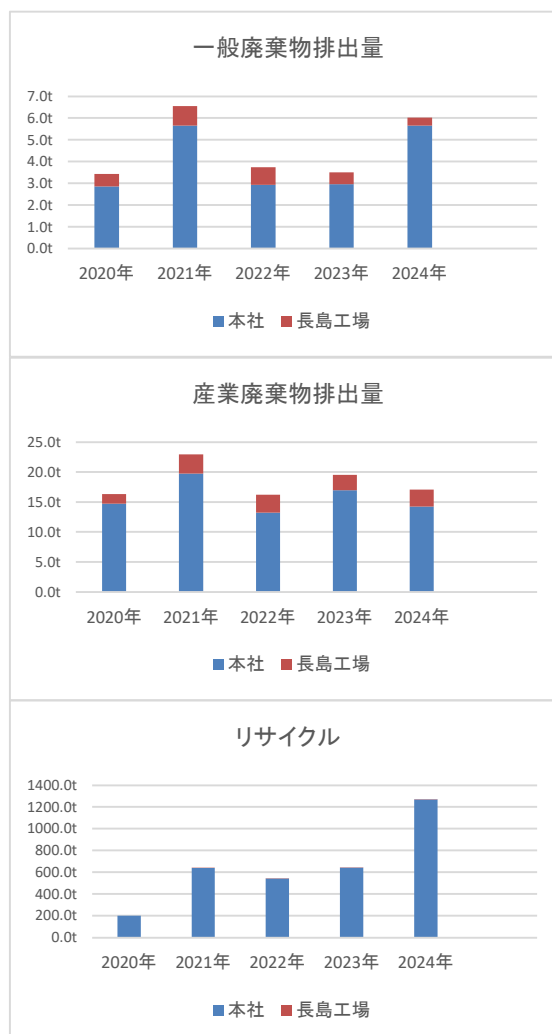
[2]廃棄物排出量



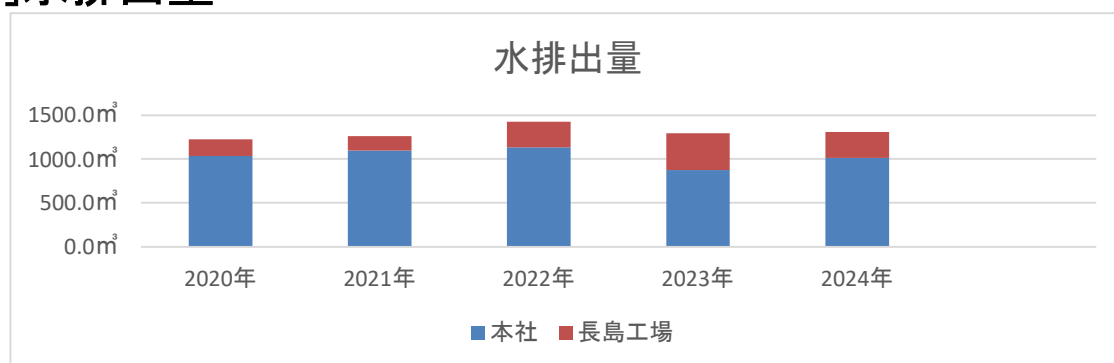
一般廃棄物は約6t
 前年比:172%(前年度約3.5t)
 産業廃棄物は約17t
 前年比:87%(前年度約19.5t)
 一般廃棄物の量は増えましたが
 産廃量が減ったため目標を達成
 することができました。
 累計約23t(前年比100%)

今年度は生産増加により材料な
 どの梱包された箱が多かった事
 と、帳票整理もあり、一般廃棄物
 の排出量が増えました。

廃材はすべてリサイクルされて
 います。
 廃材リサイクル約1271t
 前年比:198%(前年度約643t)



[3]水排出量



水排水量は約1.3km³ 前年比101%(前年度約1.3km³)
 今年度は新工場稼働により本社の水排出量が増加した。
 また、長島工場においては漏水が発見され修理を実施。修理以降の数値を過去
 と比較すると、工場立ち上げ当時から発生していたと考えられる。

[4]特定化学物質の管理

本社・長島工場、共に毎月（購入量・含有率・使用量・漏れ）のチェックを行い、適切に管理されていました。



[5]製品サービス

本社の目標の達成はできませんでしたが発生原因の対策・改善の徹底を行い、件数を晴らすことで無駄な材料や再作に発生するエネルギー使用量の削減に繋がる事を意識して、引き続き品質管理の強化に努めて参ります。



[6]地域清掃活動の参加

今年は、
本社で会社周辺の清掃活動を1回、清掃活動への参加を2回行いました。
長島工場は会社周辺の清掃活動を2回行いました。



VII 環境活動の取り組み評価

[1]CO₂排出量削減

- ・本社、工場を一部半地下にすることで外部からの熱を抑える。
- ・ダクト使用により空調を効率化。
- ・天井に断熱シートを使用し、外からの熱を遮断。
- ・室内の壁・窓に断熱シートを使用し、外からの熱を遮断。(2020年)
- ・新工場にGHPエアコンと断熱シートを設置。(2022年)
- ・追加で室内の壁・窓に断熱シートを使用し、外からの熱を遮断。(2024年)

今後もCO₂削減のための活動を継続します。
(実績は本社が昨年度よりも増加したため△)



実績	取組
△	○

[2]廃棄物排出量削減

- ・片面使用済み用紙の裏面使用。
- ・循環型のパーツ洗浄台を使用。
- ・エコキャップ運動への参加。
- ・金属類のリサイクルの徹底。



実績	取組
○	○

[3]水排出量削減

- ・毎月、水量計の調査を行う。
- ・ナノバブル発生装置による水の腐敗の軽減
- ・水の循環装置・加工液冷却装置の点検



実績	取組
○	○

[6]特定化学物質の管理

- ・購入製品のSDSの確認。
- ・毎月の化学物質使用量のチェック。
- ・不良品削減の呼びかけ



実績	取組
○	○

[7]製品及びサービスに関する環境配慮

- ・クレーム件数の調査
- ・不良の原因を追究し対策を行う。

(実績は本社が×、長島が○のため△)



実績	取組
△	○

[8]地域清掃活動の参加

- ・今年度3回の清掃活動への参加



実績	取組
○	○

VIII 次年度の環境経営計画

CO₂排出量の削減

活動内容及び働きかけ



- ・休憩時・昼休みの消灯
- ・稼働していない機械の電源カット
- ・エアー漏れのチェック
- ・室温管理の徹底
- ・事務所及び食堂 夏季28℃冬季20°
- ・工場 23℃±2℃ 検査室21±1℃

- ・TPM体制の維持。(整備)
- ・電気使用量を掲示し周知
- ・エアコンの点検の徹底
- ・コンプレッサーの点検
- ・フィルターの月1清掃



- ・アイドリングストップ
- ・暖気運転の禁止
- ・輸送の合理化、輸送方法の工夫
(少量・多頻度輸送の見直し)

- ・急加速の抑制
- ・定期的に車のメンテナンスを実施
- ・月毎の燃料使用量を掲示

廃棄物排出量の削減



- ・裏紙使用
- ・通達事項はPCのネットワークを活用
- ・古紙のリサイクル化

- ・切物の分別、リサイクル
- ・WE線の循環システムによるリサイクル
- ・洗浄油の循環装置の使用。

水使用量の削減



- ・社員に節水の啓蒙を図る

- ・毎月の使用量の掲示

地域清掃活動への参加



- ・会社周辺清掃活動参加
- ・ボランティア清掃への参加

- ・年2回の地域清掃全員参加

特定化学物質の使用管理



- ・化学物質使用量を調査

- ・毎月の使用量の掲示

製品及びサービスに関する環境配慮



- ・クレーム件数の削減
- ・QC検定受験

- ・不具合時の対策会議の実施

IX 環境関連法規の違反・訴訟等の有無 及び環境コミュニケーション

当社に適用となる主な環境関連法規制等

法令の名称	当社で関係している項目	遵守状況
廃掃法	事業活動に伴う産業廃棄物、一般廃棄物の処理	○
フロン排出抑制法	第1種特定製品廃棄物者及び譲渡者	○
リサイクル法	長期使用、再生資源・部品利用	○
振動規制法	工場施設の振動	○
騒音規制法	工場施設の騒音	○
労働安全衛生法	従業員の労働安全と健康保持	○
毒物及び劇物取扱法	盗難防止、種類表記	○
浄化槽法	法定検査、定期点検	○
水質汚濁防止法	汚染状態の測定及び記録	○
消防法	危険物の分類と指定数量	○
公害防止組織法	公害防止管理者等の選任・届出	○
PRTR法	第1種指定・特定第1種化学物質の排出量の把握	○
鹿児島市環境保全条例	規制基準の遵守、公害施設の届出	○

◆環境関連法規制等の遵守状況確認の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

◆近隣住民からの苦情はありません。

◆関連当局より違反の指摘はありません。

X 代表者による全体の評価と見直しの結果

◆環境目標及び環境負荷

今年度は、新工場（2022年設立）での車載部品量産稼働が本格的にスタートし、部品量産数は前年度の倍増となっている為、電力量、ガス使用量、CO₂排出量が増加した結果となったが、特殊遮熱シートの効果により、予測していた見込みより削減できていた為、効果は発揮できていた。今年度の数値をベースに新工場含め、会社全体での新たな取組み、改善が必要とされる。

金型部品製作においては、各工程での加工時間の削減、不良クレームを0にする品質保証体制の改善を要する。

部品量産においては、稼働率向上を目標に生産性を向上させ1個あたりのサイクルタイムを短縮し電力、ガス、CO₂排出量の削減に努める。

◆環境取組み

昨年度の続き、老朽化設備の更新の投資を行い省エネ設備の占める割合が増え、全体的な削減に貢献できている。

空調機は、自主清掃に加え業者によるクリーニングを行い、電力負荷の低減に努めてきた。

SDGSについては、エコアクションメンバーからの働きかけにより社員の意識向上に繋がっており、会社業務だけでなく、私生活での意識の変化、行動にも繋がっていると思う。

顧客監査においても環境配慮への取り組む姿勢を非常に高く評価頂きビジネス領域拡大の機会に大きく貢献出来ている。

◆総合評価と次年の取組み

部品量産事業拡大により売り上げが15%増加し、利益率が向上した背景には、環境負荷低減による取組みが大きく締めている。

全体的な経費削減に貢献している。

次年度以降、2026年度には新たな自動車部品量産ライン、コネクタ部品量産を設置していく予測となっているので、環境負荷低減の数値目標を上回る結果を継続できる様、会社全体で改善活動を進めていく。

昨年度に続きクレーム件数の削減が達成できていない状況にある。

社内教育の充実を図る必要がある為、組織の改善を行い教育体制の早期確立を進めていく。